

データが語る “いま”

本川 裕



第22回

いろいろがつる 若い女性たち

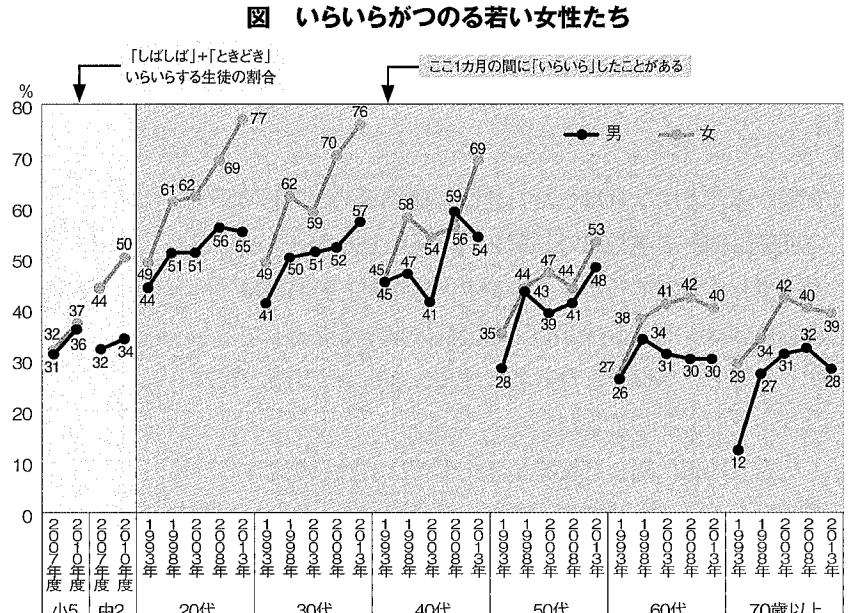
統計数理研究所によって「日本人の国民性調査」が1953年以降、5年ごとに継続的に行われている。長期的な日本人の意識変化をみるために貴重な調査である。

最近、2013年の結果が公表されたが、ここでは、1993年以降調査されている「いろいろ」の有無に関する結果について、性別・年齢別の動きを追ったグラフを示した。

年齢別にみると、若い世代ほど「いろいろ」が多い点が、まず目立っている。次に、時系列変化では、50歳代までは男女ともに基本的に「いろいろ」が増加傾向にあるのに対して、60歳代や70歳以上は、近年むしろ、「いろいろ」が減っているという対照的な動きとなっている。

正社員と非正規社員の関係、年金、介護、医療といった社会保障の財政問題などにおいて、中高年や高齢者の既得権益を保護するため若い世代に矛盾のしわ寄せをするような事態が進行しているのが、まわりまわって、若者や働き盛り世代の「いろいろ」につながっているのかもしれない。

男女別では、全体として、男性より女性のほうがいろいろを感じている。これは、うつ病が女性に多いこととパラレルな結果である（本コラム昨年6月号「う



(注) 小5(小学校5年生)と中2(中学校2年生)は全国の完全給食実施公立学校生徒を対象とした調査(回答数は小学校、中学校それぞれ5,000人程度)の結果。20代以上は全国の成人男女を対象とした調査であり回答数は1,579人(2013年)。

(資料) 小5・中2は日本スポーツ振興センター「児童生徒の食事状況等調査報告書」、20代以上は統計数理研究所「日本人の国民性調査」

つ病患者の推移」参照)。

とくに、20代から40代までの女性で、最近、とみにいろいろがつてきている。20代や30代の若い女性では、4人に3人が、この1カ月間にいろいろしたことがあると回答しているのである。

若い女性は何に対してこんなにいろいろしているのであろうか。同じ調査で、頭痛・偏頭痛に悩む女性の割合も、20代で58%、30代で57%と2008年から10%ポイントほど上昇しており、生理的な影響を伴うような状況変化、たとえば、仕事上のストレスの増大や多忙といったことが原因となっている可能性があろう。

60代、70歳以上は、男女計ではいろいろが減じているが、男女差は大きいことがわかる。「濡れ落ち葉」といった言葉に表されている、高齢夫婦の状況を反映しているのかもしれない。

高齢の妻の投稿を毎週水曜に連載し

ている東京新聞の「つれあいにモノ申す」というコーナーはなかなか面白い。トンチンカンな夫に腹を立てて妻という構図が最も多い。たとえば、「夫が、麦茶を沸騰させて、すぐ冷蔵庫に入れた。『冷ましてから入れてよ』と言うと、『冷蔵庫が冷ましてくれるんだ』と返された。あんたの頭を冷蔵庫に入れて冷ましたい」(あきれ果てた妻・63歳)(東京新聞2014年11月5日)

なお、小中学生の給食や食生活に関する調査のなかでも、食と関連して生徒のいろいろ度を調べているので、この調査の結果から小中学生のいろいろの状況を図に加えた。

これをみると、最近は、小学生や中学生もいろいろが高じていることがみてとれる。また、小学生ではまだ男女差がないが、中学生になると、すでに20代以降の特徴である女性の上位傾向が始まっていることがわかる。



ほんかわ・ゆたか

東京大学農学部農業経済学科出身。(財)国民経済研究協会常務理事を経て、アルファ社会科学(株)主席研究員。現在、幅広い分野の統計データをグラフ化して公開する「社会実情データ図録」サイトを主宰しながら、地域調査等に従事。著書に『統計データはおもしろい!』(技術評論社)、『統計データが語る日本人の大きな誤解』(日経プレミアシリーズ)など。